

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

No.	分野	発言の要旨	県の考え方
1	安心2	○阿蘇くじゅう国立公園利用者数について ・プロジェクト推進のための効果的な情報発信とは具体的にどんなものか。 SNSの活用とその情報の裏付けとなる見た目の良い公的なHPが効果的であると著名な観光アドバイザーの方が言っていた。	主体的なプロジェクトの提案や効果的な情報発信については、現在、インバウンドを意識した英語版パンフレットと動画を作成し、広報を進めているところです。パンフレットは、9月3日から5日に開催される大阪・関西万博の九州7県合同催事のブースや、国・地域の戦略パートナーを通じて欧米豪の現地旅行会社に配付するほか、大分空港等にも配架しています。動画については、万博ブースでの放映に加え、県の公式動画サイトや「オオイタおと時間」というアウトドア情報を発信するインスタグラム等で配信しているところです。また、見た目の良い公的なHPも重要であるため、今後、効果的なHPのあり方を検討してまいります。
2	安心2	○阿蘇くじゅう国立公園利用者数について ・宿泊を伴うアクティビティの提供も観光客増に必要。	今年度、2か国語対応のパンフレットを新たに制作しますが、ハイキングコースや宿泊につながるアクティビティ等を掲載し、積極的に広報して行く予定です。
3	安心2	○阿蘇くじゅう国立公園利用者数について ・本県の豊かな自然環境保護のために保護団体だけでなく、研究機関にも支援いただきたい。	自然環境を保護するためには、保護団体だけでなく研究機関との連携も重要であると認識しており、関係機関との連携を進めてまいります。今後も阿蘇くじゅう国立公園が持つ豊かな自然の魅力を、アクティビティの要素を交えながら、より一層強く発信してまいります。
4	安心2	○阿蘇くじゅう国立公園利用者数について ・日本で、九州で、一番インバウンドに打って出れるのが、阿蘇くじゅう国立公園だと考えている。満喫プロジェクトだけを念頭に広報するのではなく、全体を見据えて魅力を発信していく必要がある。 ・機能強化をしているツーリズムおおいたがDMOとしての役割を戦略的に担っていけるので広報においては、観光分野との連携も必要。	・阿蘇くじゅう国立公園はインバウンド誘客の鍵となる重要な観光資源であると認識しています。広報活動においては、公園が持つ魅力を単独で発信するのではなく、県全体の観光資源と連携し、広域的な魅力を発信してまいります。 ・DMO（観光地域づくり法人）として機能強化を図っているツーリズムおおいたとの連携は、戦略的な広報を行う上で不可欠であると考えています。引き続き、観光分野との連携を強化し、公園の魅力をより効果的に発信できるよう努めてまいります。
5	安心2	○河川的环境基準達成率について ・達成率算出の母数に温泉排水が流入する河川は入っているか。 温泉排水が流入する河川の水質や生態系が看過できない状況にあると考えている。 浄化槽を起因とする問題等を議論し、保全への一歩を踏み出してほしい。	河川的环境基準達成率の算出母数には、温泉排水が流入する河川も含まれており、調査対象河川43水域中、未達成だったのは4水域のみです。その原因は、いずれも生活排水の汚濁が主体であり、濁水や藻類の繁殖なども影響しています。温泉排水が多く流入していると考えられる朝見川（別府市）及び町田川（九重町）では、環境基準達成の指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）は基準値を満たしています。ご指摘の温泉排水と浄化槽の問題については、温泉成分が浄化槽を腐蝕・損傷させる影響があることを認識しており、実態に応じて事業者への指導を適切に行っているところです。今後も、河川の水質を常時監視し、河川環境の保全に努めてまいります。

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

6	安心3	○おおいた子育てほっとクーポンについて ・国の「出産・子育て応援給付金」の開始に伴い、令和5年度以降の新規クーポンの発行はしないとされているが、どのような議論で廃止になったのかを知りたい。	「出産・子育て応援給付金」制度の創設により、第1子であれば1万円であったクーポンが10万円の給付金となり、経済的支援としては大きく拡充することになるため、市町村のクーポンの発行や支払い等の事務負担も考慮した上で、廃止をすることとしたものです。クーポン廃止時には、実施主体の市町村を含め綿密な協議を行ったほか、子育ての当事者なども入ったおおいた子ども・子育て応援県民会議においてもこの方針についてご説明してご意見を伺っており、ご理解をいただいたものと考えています。
7	安心3	○県営住宅の整備について ・入札不調や資材の調達の遅れが原因とのことだが、他の事業でも同様のケースが多くある。社会情勢の影響が大きく、人手不足や資材高騰もあり予算がつかなくなったりもある。緊急性の高いものを優先としつつ、要因分析と今後の対策をしっかりと取り組んでほしい。	施工業者の受注状況や資材の入手状況を事前に把握し、施工時期の平準化や適正な工期設定に努め、計画を着実に進めていきます。
8	安心3	○県営住宅の整備について ・人件費や材料費高騰で初年度から遅れを取っているが、令和15年度の500戸整備はかなり厳しい目標値設定に感じる。目標値の修正はどのように検討されるのか。	目標値の修正については、今後のさらなる人件費や資材の高騰など、社会情勢の変化を注視しつつ、必要に応じて計画期間の中間年（令和10年度）の見直しの際に検討します。
9	安心4	○健康寿命について ・若い世代の男性（女性も）が、健康上の問題で日常生活に影響があるという回答が増えたとのことだが、その理由について具体的に分析ができていない。 ・若い世代が健康状態に不安を抱える割合が多くなっており、生活習慣病等の増加状況もしっかり分析した上で、疾病ごとに対策を行うことも大切。	これまで、診療情報・診療データのビッグデータ等を分析し、大分県の疾患の特徴に応じたデータヘルスに取り組んでいるところです。その結果、大分県は生活習慣病である高血圧性疾患や糖尿病などの有病率が高く、人工透析の患者数も全国的にも多いため、市町村による早期の受診勧奨や、早期介入・早期治療に向けた診療ガイドの作成、予防プログラムの運用などを実施しています。今後もこうしたデータの分析結果に基づいた効果的な施策を推進していきます。
10	安心4	○あるとっくについて ・「あるとっく」アプリについても、健康につながる行動をいかにしてもらえるかという分析をした上で運用された方がよいのではと思う。	新「あるとっく」では、日常のウォーキングだけでなく、減塩や野菜摂取、歯磨きなどの健康的な生活習慣の実践や健康コラムを読み終わるとポイントが付与される機能を追加し、貯まったポイントは協力店での割引等に利用できるほか、県産品などの賞品が当たるキャンペーンも予定しています。市町村と連携し、行政主体で様々な公的なイベント情報等を発信し、県民が安心して活用できるアプリとして今後も普及に努めていきます。
11	安心4	○ふくふく認証制度について ・認証の基準ハードルが高すぎて、事業所の業務負担になっているのではないかと。また現場の意見や事業所の実態等を要件に含んだ方がよいのではと思う。 ・特にハードルの高い項目については、県が支援してほしい。	ふくふく認証制度の基準には満たすことが容易ではない基準もありますが、簡単に認証を受けられると価値が下がるため、県としては認証のハードルを下げるのではなく、基準達成に向けて各事業所の実態に合わせた個別セミナーなどの支援を強化していくこととしています。制度創設時にも複数回にわたり関係者のご意見を伺ったところですが、今後も取得に係る負担が軽減できるような支援も併せて行っています。
12	安心4	○ふくふく認証制度について ・社会福祉施設の人材確保は最重点課題。他職種との賃金格差の課題もあるが、一方で働きやすさや仕事に対するやりがいを持っているということが非常に重要。介護研修センターではキャリアにおける資質向上の研修も行っており、研修評価は高い。 ・ノーリフティングケアの推進についても、県内6県域すべてにおいて導入モデルとなる先進施設を指定しており、導入率も令和6年度に70%に達したところ。 ・引き続き参加宣言法人の78法人について、県と連携しながらサポートを行っていききたい。	県社会福祉協議会には介護DXサポートセンターの運営を通じて、ノーリフティングケアや介護ロボットの導入支援を担っていただいているほか、介護研修センターでキャリアパスに対応した人材育成にも取り組むなど、ふくふく認証の後押しをいただいています。今後とも連携をお願いします。

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

13	安心7	○刑法犯認知件数について ・犯罪を許さない強い意識を持って防犯活動に当たってほしい。「見られている」という意識を持たせる環境整備も必要。	県内の犯罪発生状況を踏まえ、発生が大きく増加しているものや悪質重要なものなどに重点を置きながら、検挙活動と被害防止活動を推進していきます。これまでも自治会等に防犯カメラ設置を働きかけており、設置促進に向け取り組むとともに、家庭用防犯カメラについては、国の交付金を活用可能なため、市町村に対して補助事業化の働きかけを行っています。これらを踏まえ、地域の防犯力の強化、また犯罪の起きにくい環境づくりを推進していきます。
14	安心7	○刑法犯認知件数について ・被害者やその家族への心理的ケアや支援も行なってほしい。	県では、事件や事故の発生直後から指定された警察官が被害者等に寄り添い、必要な支援を行っております。また、県、市町村、弁護士会等の関係機関で構成するネットワーク会議の開催、犯罪被害者等支援コーディネーターの配置により、被害者やその家族への円滑な対応を支援しています。今年4月には、ネットワーク会議内に「支援調整会議」を新設し、個別事案の支援内容を協議する体制を整えました。カウンセリングや医療機関の受診等、必要な個別支援を検討します。さらに、市町村と連携した見舞金制度の実施や、警察における初診料等の公費負担など、経済的な負担軽減にも取り組んでおり、今後も被害者等のニーズに応じたきめ細かな支援を行ってまいります。
15	安心7	○刑法犯認知件数について ・悪いことは悪いと、教育機関においても指導を徹底いただきたい。	学校においては、常日頃から些細なことであっても職員間で情報共有するなど、児童生徒の問題行動等への早期発見・早期解決に向けて組織的に生徒指導にあたっています。また、非行防止に関する講話を警察と協力して実施するなど、関係機関とも連携しながら児童生徒の健全な育成に励んでいきます。
16	安心7	○食中毒の発生件数について ・目標値の発生0件というのはハードルが高い設定となっている。多数の食品を扱い、複数の従業員がいる中で、食中毒発生件数が0というのは大変厳しい。全国の平均発生件数等を勘案して、目標設定表現を再検討するのも良いのでは。	食の安全・安心確保のため、食中毒発生件数0という高い目標を設定しましたが、初年度は6件発生し、目標達成には至りませんでした。ご指摘を踏まえまして、食中毒発生件数が施策の成果を推し量ることができる目標指標として適切であるかを含め、検討してまいります。
17	安心7	○食中毒の発生件数について ・食中毒が発生した店舗等は相当なリスクを負う。しっかり指導いただきたい。	HACCPに沿った衛生管理計画の作成及び計画に基づく衛生管理の徹底を指導していくほか、県内各地で衛生講習会を開催し、衛生管理者に対して知識・技術の普及と衛生管理意識の向上を図ってまいります。

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

18	元気2	○創業支援について ・各県の商工会議所や商工会の会員がどんどん減っている。理由としては倒産廃業や経費削減があるが、かなり会員の入れ替わりも起こっている。創業にかかる支援をもっとしていただきたいと思っている。	創業の裾野拡大を図るため、創業に関するセミナーや女性起業家への支援、ビジネスチャレンジコンテスト「OITAゼロイチ」の開催などの取組をおおいたスタートアップセンターをはじめとする関係機関と連携して実施しており、令和6年度の創業支援件数は720件と過去最多となりました。今後も多様な人材が創業しやすい環境を構築するため、関係機関と連携を深め、取組を進めてまいります。
19	元気5	○男性育休取得率、管理的職業従事者に占める女性割合について ・どちらも経営者層の意識と、雇用されている側の男女問わずの意識醸成が必要。意識醸成には時間がかかるが、持続的に、継続的に取り組んでほしい。	男性の育児休業取得率や女性の管理職割合向上は、持続的かつ継続的な取組が不可欠であり、経営者と労働者双方の意識改革を促すことが重要です。男女が共に働きやすい職場環境を整備するため、男性の育児休業取得促進を含む働き方改革の推進に取り組みます。また、結婚や出産といったライフイベントを経ても安心して働き続け、管理職を視野に入れたキャリア形成ができるよう、経営者向けの意識改革セミナーや、働く女性を対象としたキャリア形成セミナーなどを開催し、女性の社会参画を力強く後押ししてまいります。
20	元気5	○認証制度の効果について ・おおいた子育て応援団やおおいたキャリアール認証への認証効果を教えてほしい。	「おおいた子育て応援団」は、仕事と育児が両立できる職場環境づくりや男女が共に働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を県が認証する制度です。認証企業には、県のホームページで企業名を紹介するほか、認証マークを企業の求人活動に活用いただいたり、県の事業において加対象とするなど、積極的にインセンティブを提供することで、より多くの企業が働き方改革に取り組むことを促進しています。 「おおいたキャリアール認証」は、女性の管理職・労働者比率が全国平均を上回っている等、女性が活躍できる職場づくりに積極的に取り組む県内企業を認証する制度です。令和5年度の制度開始以来、認証企業は順調に増えており、子育て世代の意見を反映した就業規則の改正や就労環境の改善など、独自の先進的な取組を進めています。こうした企業の増加が波及効果となり、県全体の女性活躍推進につながると考えており、今後も制度の周知に努め、認証企業のさらなる増加を図ってまいります。
21	元気5	○男性育休取得について ・10年前から比べれば、取得率も上がってきてはいるが、当事者に聞くと「もっと長期間取得したかった（してほしかった）」という声を聞く。取得の満足度としてはどうなのかと思うところもある。	男性育休取得者の約70%が「総合的には満足」と答えた民間調査において、取得期間を「満足」と答えた割合は42.8%にとどまり、取得期間が長いほど満足度が高い傾向がみられます。労働者が希望する育休期間を取得するためには、経営層をはじめとした職場全体の理解促進と、職場環境づくりが不可欠です。今後も、企業の意識啓発や職場環境整備の取組を支援していきます。
22	元気5	○男性育休取得について ・取得が進まない要因として代替要員の確保が困難ということがある。人手不足を少しでも緩和するため、人材マッチングを進めていきたいと考えている。大企業では取得が進んでいるが、規模が小さくなるにつれ取りづらくなっている。人材マッチングや省力化が重要になってくる。	男性の育休取得促進を含む働き方改革推進には、業務の効率化や属人化の解消を進めることが重要です。特に、DXを活用した業務の効率化は、中小企業でも働き方改革を加速させる効果が期待できます。今後も、セミナーを通して働き方改革を進めることが人材の確保や生産性向上につながるといったメリットを周知し、働き方改革への理解促進を図ります。

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

23	元気5	○男性育休取得について ・女性が取得する育休は年単位など長期間だが、男性はどの程度の期間取られているのか、またどういった時期に取られているのか教えてほしい。	令和6年度の県調査では、男性の育休取得期間は「1週間以上1か月未満」が42.2%と最も多く、次いで「1か月以上3か月未満」27.2%、「1週間未満」17.7%となっています。取得期間は徐々に伸びており、「1か月以上」は39.9%と前年度調査より4.1ポイント増加しています。また、取得時期は、子供が生まれてすぐ（出産～退院時期）が約7割との民間調査結果があります。
24	元気5	○男性育休取得について ・以前に比べ、男性の子育て参画は非常に増えている。育児休業取得の観点以外でも子育て支援や育児参画の手法などを幅広く広報していくことで男女問わず子育てに参加しやすい社会になっていくと思う。	県では、妊娠届出時の父親向け育児本「イクボン」配布や、企業への出前講座等により、男性の子育て支援に取り組んできました。今後も、県の子育て支援ポータルサイト「子育てのタネ」において、取り組みやすい子育ての工夫を掲載するなど父親向けページの一層の充実を図るとともに、SNS広告等も活用しながら子育て世代に重点的に情報発信していきます。
25	元気5	○女性活躍について ・産業界では女性の経営者など目に見える活躍があるが、一方で自治会などの地域ではまだまだ差があるのが現状。働く場だけではなく、地域にも注力していく必要がある。	女性の社会参画を阻害する要因となる固定的な性別役割分担意識の解消に向け、男女共同参画社会づくりについて学ぶ団体等に専門の講師を派遣する出前講座や、性別による先入観をこどもが持たないよう親子向けの啓発事業等を行い、地域における男女共同参画の意識醸成に取り組んでまいります。
26	元気5	○女性活躍について ・女性活躍を推進する行政に女性の管理職が少ないのではないかと感じる。	R7.4.1時点の女性管理職比率は12.1%であり、令和10年度に15.5%の目標達成を目指しています。一方でマネジメントを担う重要ポストである班総括等の女性比率はR7.4.1時点で23.2%となっており、登用が進んでいる状況です。今後も女性職員の活躍に向け、キャリア早期からの多彩な職務経験の推進や、国や他自治体、民間企業等への研修派遣の機会の付与などの取組を進めてまいります。
27	元気5	○女性活躍について ・管理的職業の手前の段階の母数を増やすことも重要。経済的な自立も大きな要因となるため、正規雇用数を増やし、活躍できる環境整備が必要。	出産や育児、介護等のライフイベントとキャリアの両立ができるよう、女性のキャリア形成への支援を行うとともに、女性の継続就労に向けた職場環境の改善等への費用助成や、非正規雇用労働者の正社員化への奨励金支給により、女性活躍推進に取り組む企業を支援してまいります。
28	元気6	○芸術文化のアウトリーチ活動について ・アウトリーチの活動は非常に重要。比較的小規模な学校での開催では、地域住民や保護者など参加者を増やすなど、よりローカルで出会いの少ないところで拡大に繋げてほしい。	県立美術館のミュージアムツアーや文化キャラバン事業など、学校訪問を含む各種ワークショップやアウトリーチ事業に取り組んでいます。地域が偏らないよう、県内各地で実施し、地域住民や保護者などにも声をかけ参加者の拡大を図りたいと考えています。
29	元気6	○芸術文化について ・福岡・大分DCの一つのテーマが、アートだった。大分県民にはアートを受け入れる土壌があり、芸術文化に触れる機会を継続的に創出することで県の魅力を上げることにも繋がっていく。学校のみではなく、歴史博物館などの公共の様々な機能を持った施設とアートを組み合わせるといったやり方もあるかと思う。	JR大分駅のホームや大分空港、ホーバーターミナルにアート作品を設置して、多くの方の目に留まるようにしています。また、県立美術館の収蔵品を各地で展示し、その地域に関わる美術や歴史等を学び、楽しむ機会を提供する「地域美術館」を実施しており、昨年度は宇佐市の県立歴史博物館を会場として約2,400名に來場いただきました。引き続き、県内各地の公共施設等とも連携しながら、県民が気軽に芸術文化に触れられる機会を充実させていきます。

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

30	未来創造2	○空き家の利活用数について ・空き家の利活用施策は、移住に伴う購入など移住者への支援傾向が強いように思う。移住者には刺さる支援だが、すでに大分県内にいる方が事業を始める際に空き家購入などを支援できるように支援対象を広げてほしい。	空き家は個人財産であり、管理や処分は自己責任を原則としていますが、地域の人口増につながる場合や移住者が活用する場合などは例外的に公的な助成を行っています。県では令和5年度以降は対象者を移住後3年以内まで拡大しましたが、市町村は財政事情により、移住後1年以内に限定しているところもあり、要件の拡大を各市町村に要請しているところです。
31	未来創造2	○空き家の利活用数について ・新規の登録件数が横ばいなので、新聞やWEBでの登録周知を広報してほしい。生前の段階から空き家の制度があることを知っていただくことや、葬儀社を通じた情報提供なども有効的では。	空き家バンクへの新規登録を含め、空き家の適正管理・利活用を促進するため、新聞やWEB広告加え、新たに啓発動画を今年度中に作成・情報発信し、所有者等への啓発を強化します。さらに、国や市町村、県宅地建物取引業協会を含めた官民連携の対策会議を通じて、効果的な周知を進めていきます。
32	未来創造2	○地域活力づくりについて ・総合補助金の存在を知らない人が多かったり、申請手続きが煩雑だったりでなかなか活用までの一歩が踏み出せない人が多い。そういった困りごとを市町村と共に県にも伴走支援してほしい。	今年度の5月6月にテレビ・ラジオで集中的に総合補助金の広報を実施しました。併せて、空き家を活用したビジネスを支援する「空き家ビジネス活用支援枠」についても、周知・活用していきます。また、振興局職員が積極的に地域を訪問して、事業周知や申請、事業実施の伴走支援をしています。
33	未来創造2	○地域活力づくりについて ・大きな手元資金がなく、総合補助金を使いづらい方もいらっしゃる。そういった方もうまく活用できるような仕組みを提案できるようにしておくことも良いのでは。	地域未来創造総合補助金は、意欲ある事業者を支援することを目的としており、一定の自己負担を前提として、最大限の効果につながるよう補助金で支援しています。
34	未来創造5	○授業でのICT機器活用について ・ICTの活用を迷われている学校が結構あるのでは。遠隔を活用した専門家によるプログラミング教育の展開など、大学も連携できるので、上手に活用いただいてICT教育の意義を広めていきたい。	プログラミング教育に不安を抱える中山間地域等の小規模校では、専門家(大学教授)による遠隔学習を取り入れているところです。今後も大学等との連携を深め、ICTを活用した多様な学びの機会の充実に取り組んでまいります。
35	未来創造5	○授業でのICT機器活用について ・自分が住んでる地域で、利用率に差があることは課題。活用促進の手立てとして、硬筆や毛筆の書道展に作品を出すように、半ば強制的にプログラミング作品を完成させる取組をしてみるのはいかがでしょうか。	県が各市町村のICT機器活用状況の進捗管理を行い、進捗が芳しくない市町村には指導助言を行います。また、旗振り役となる校長や教頭をはじめ教員全体の意識改革を進めるとともに、優良事例の普及を図るなど、研修の充実に努めてまいります。
36	未来創造5	○授業でのICT機器活用について ・ICT機器活用の推進をしていただきたい一方で、長時間の接触などの弊害もあると思う。使用できない時間の設定などオンオフの使い分けを学校でも進めてほしい。	情報モラル教育教材「GIGAワークブックおおいた」を活用した授業や専門家による出前授業などを通じて、端末利用における健康への配慮やネット依存防止等について、児童・生徒への指導および保護者への啓発を行っており、引き続きこれらの取組の充実に図ってまいります。

第3回「安心・元気・未来創造ビジョン2024」推進委員会 委員意見一覧

日時：令和7年8月1日（金）14:00～16:00

場所：ホテル日航大分オアシスタワー5階 孔雀の間

議事：「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の進捗状況について

37	全体	○県の広報活動について ・若い世代はテレビを見ないのでSNS広告を使って、県の取組を確実に届けてほしい。 全体的にまだまだ広報不足を感じる。世代に応じた有効的な広告活動を行い、有益な県の事業や施策を広報してほしい。	県政の情報発信について、県民の方に十分に届いていない恐れもあるため、常に情報が欲しい方や求めている方に届くように考えながら取り組んでいます。各市町村や議員の方、ビジョン推進委員会をはじめ各種審議会の委員の皆さんなどにもお願いしながら情報発信にしっかりと取り組みます。
38	全体	○会議資料について ・90%未満の指標を中心とした議論になったが、90%以上の指標でも、前年度より実績値が下がっていたりする項目などについて、有効的な取組を意見交換することも検討してはどうか。	指標の達成率にかかわらず、より幅広い意見交換に資するよう、資料の構成や進行の改善に努めます。